

太政類典

官制

文官職制

七年九月廿日

造幣寮事務ヲ改正ス

大藏省伺

造幣寮創立以來事業盛大ニ相成候処首長御雇外國人
キンドル儀從來種々不都合ノ所行有之由ニテ同寮長官
始職工人ニ至ル迄多少苦情有之此程少輔吉田清成坂
地出張實際ノ情狀詳細遂探知猶寮中長官其他ノ建議
致審問歸京ノ上同寮処分ノ考案委細別冊ノ通及具狀
候依テ致熟考候處右ハ當初東洋銀行條約ノ旨趣ニ淵
源シ彼我ノ權利判然輕重無之ニ付造幣頭ノ責_任不相

立随テ中外ノ職工人制馭難相成此終差置候テハ到底同寮獨立ノ目途無之候処幸来庚午四月ハ雇期限ニモ候間此際吉田清成具狀ノ趣ヲ以テ東洋銀行并キンドル其外不用ニ属シ候外國人解約放免一切同寮ノ事務断然改正致處分度存候自然彼是ト時日遷延此機會ヲ誤リ候テハ将来造幣寮獨立ノ期モ無之候付於御院薦ト被遂御詮議至急何分ノ御欽裁相成候様致度尤本議御許可相成候ヘハ丈夫々處分ノ上迄御届可申上候依テ吉田清成具狀書其外同寮長官等建言書都合五冊相添此旨致稟申候也
七年九月十三日
大藏

伺ノ通聞届候事
七年九月廿日

吉田清成上申
大藏卿宛

曩日造幣寮為御用大坂出張ノ命ヲ奉シ候ニ付該寮理務

上処分方法概畧之レヲ三款ニ分チ鄙見相添ヘ豫シメ閣下ニ開陳シ既ニ其決ヲ乞ヒ出張先ニ於テ臨機之レヲ処シ夫々其目途ヲ達シ候心得ノ処首長「キンドル」恣ニ私論ヲ主張シ傲慢無礼至ラサル所ナク初メニ於ケル從是接見ノ儀申入候モ彼レ就テ見ルヲ欲セス宜シク我ヨリスヘシト剝サヘ鄙職ニ答フルノ書猶己レノ名ヲ以テセス加フルニ非理ノ文
首長
往復書第
号ヲ参覽スヘシ此書不適當敬ヲ失
スルノ甚タシキヲ以テ我書記ヲノ彼レノ書記ニ返
付書記官ヨリセシムル等ノ形状ニテ其挙動實ニ絶
言語候次第ニ有之候尤必然右様ノ儀モ可有之推察
豫テ覺悟罷在候事故敢テ意トセス只管内外万端ニ
注目シ陰ニ御雇外國人各自ノ情實ヲモ探偵イタシ
候処什ニ七八ハ屈指約期ノ満ツルヲ俟テ居リ候勢
是他ナシ偏ニ「キンドル」ノ羈絆ヲ免カレンヲ渴望

スルヨリ出ツルモノ疑フベカラス且又親シク寮中
各局長輩へ三方法ノ大意懇々諭シ試ミ候ニ一同其
意ヲ領シ候ヘ氏敬服左祖ノ色ヲ表ヒス公ニ首長ヲ
要セザルモ誓テ工業上毫モ支障無之旨ヲ主張シ追
々御雇外國人満期ニモ相成候儀此機失フベカラス
一大變革以テ真ニ皇國政府ノ造幣寮トイタシ度
他更ニ良法無之段申張り候因テ熟慮候ニ元來此行
アルモノハ首長初メ約期己ニ差迫リ居候儀兎角該
寮ヲ維持シ將來ノ好都合ヲ計ルノ辺ヨリ起ルモノ
ニテ畢竟是レマテ「キンドル」ノ暴推ヲ張ルモノハ當
初我レノ東洋銀行ニ約スル所ト東洋銀行ノ「キン
ドル」ニ約スル所ト多少相齟齬シテ當ヲ得ザルアル
ヨリ來ルモノ故ニ今之レヲ改メ一々其當ヲ得セシ

メ今後各自其権限ヲ定メ彼是相軋ルノ患ヲ芟除シ
隨テ益中外人民ノ信憑ヲ厚クセントノ旨趣ニテ已
ニ三策ヲ畫シ機ニ從テ之レヲ施行セントスルニ今
目撃スル所ト探知スル所ト又衆意ノ嚮フ所ト
トヲ相照スニ皆一樣ニ出テ到底預定ノ三策モ亦タ
以テ直ニ當ルベカラサル勢苟シクモ此一大難事武
断以テ輕舉之ニ処スル能ハス故ニ再三再四及復熟
思ノ上先ツ寮中各員ノ意見ヲ諮詢セント密ニ衆ニ
令シテ書
以テ其所見ヲ十分吐露セシメ繼
クニ數回相會シテ親シク其言ヲ所
ヲ聴取シ竟ニ其情狀ヲ熟知スルニ至ル因テ此行ニ
於テハ何事モ著手セサル方然ルモ久假令約期己ニ
近キヲ以テ東洋銀行等ヨリ促カスノ急ナルアルモ

来ル十月マテハ彼レ敢テ我レニ迫ルノ辞柄ヲ有セ
ザル儀ニモ有之此際内々十分討議ヲ尽シ以テ他日
ニ備ヘント愚意ヲ決シ首長ト相逢己ニ整モ敢テ一
言之レニ及ボサズ尋常ノ接待以テ打過キ申候乍併
從是以来一段意ヲ内外探討ニ注キ篤ト熟視候處イ
ツレモ首長ヲ厭惡シテ外人ニ於ケル一般其情態是マ
蓋ニ至ル寂早放期近キニアリ余紛議ヲ生セハ多シ
損失アリトノ見若シ然ラサルモノハ「ギンドル」ノ親
戚ニ連ナルモノカ將 察員ニ於テハ勿論噉々積年ノ
幣害ヲ數ヘ若シ政府更ニ「ギンドル」ノ約ヲ繼カント
ナラハ一同辞去ヲ乞フノ外無之ト一決イタシ居候
事故最後ノ會議ニ於テハ各其言ヲ所口ヲ筆記セシ
ノ更ニ之レニ各自ヲ印ヲ鈴シテ其實ヲ証セシメ候
即 參覽スヘシ 察員一同ノ見ハ首長ヲ放免シ更ニ必

要ノ外人金分析ニハ「ジロシ」銀分析ニハ「ハンタ」銅精
製ニハ「カウラント」機關師ニハ「マタラゴン」ノ四名ヘ
適當ノ推ヲ付シ從事セシメ造幣頭ハ我職制章程以
テ履行政府ニ對シテ其責任ハ勿論諸員ノ監別使用
ニ至ルマテ十分ノ推ヲ有シ候様相成候テ初メテ真
ノ 皇國政府造幣寮ト稱スヘク乍併此時ニ方リ若
シ或ハ廟議我開化日猶淺シト徒ニ席上ノ見ヲ以テ
之レヲ推シ或ハ五年前創立ノ日ヲ以テ今日ヲ体セ
ラレ候様ニテハ遺憾ニ不堪一体是マテ察員艱苦ヲ
嘗メ多年忍耐ヲ能クシ尽力勉勵彼輩ノ罵詈訛訛ヲ
受クルモ敢テ之レヲ辱トセズ今日ニ至ルハ畢竟彼
レノ所長ヲ採リ早ク内々其工業ヲ勸メ外々巨万ノ
財ヲ彼レニ榮スルノ大弊ヲ掃攘セントノ赤心ヨリ

出候者故万一廟上ノ論專ラ穩當ヲ旨トシ信用我レ
ニ薄キモノアレハ積年ノ辛苦泡沫ニ属スルノミナラ
ス該寮特立ノ期無之歎息ノ極此事ニ候因テ篤ト詮
議ヲ尽サレ聊危疑ノ御懸念無之断然其責任御附與
有之候様イタシ度他企望無之旨ニ候右様ノ次第故
左思右想勘辨イタシ候処一々尤至極ノ儀ニテ毫モ
間然スル処無之到底按議ノ方ニ決シ候外無之若シ
将来ヲ慮ルノ深キニ過キ強テ三策中ノ得タリトス
ルモノ以テ之ヲ行フハ能ハザルニ非ズトイヘモ寮
負悉ク辞退スルニ至ルハ必然ノ儀ニ有之且首長ノ
賦性約以テ之ヲ制スベカラザルモノアルハ皆以テ
既ニ已ニ之レヲ知ル然ラハ則是レ其當ヲ得タルモ
ノトハ難申併シ寮議首長ヲ免シ東洋ノ如クセハ或
銀行ノ約ヲ解ク

ハ来去出来接續ノ際一時大困難モ可有之候ヘ氏一
同死カラ尽シ是非維持保全セシムルニ決シ居候儀
故将来却テ万世ノ安キニ至リ可申且要スル所口外
人四名モ探偵ノ模様ニテハ首長一トタヒ去リ更ニ
政府ノ約ヲ以テスレハ甘ンシテ我レニ服従可致亦
疑ヒヲ容レス旁鄙職ニ於テハ其探クル所口其見ル
所口及ヒ衆議ノ一致スル所口加フルニ鄙見ヲ以テ
スルモ一時ノ困難ヲ思ヒ永遠ノ安キヲ計リ候外無
之ト相決シ申候若シ来ル十月放免ノ儀申入彼是物
議ヲ来シ或ハ陰然我妨碍ヲ醸シ候様ノ色モ有之候
ハ、殘ル俸給ヲ一時ニ付与シ直ニ放免ノ方可然其
上紛紜ヲモ勾引候儀有之候ハ、休業引續キ一時閉
寮候テモ此目的ヲ達シ候程ノ果斷以テ之レニ処シ

舊染ノ積弊一洗イタシ度キヲニ候是レ其穩當ヲ得
 ガルニ似タルモノアルカ如シトイヘ氏早晚此変革
 ナキ能ハザル儀ニ候ヘハ一日モ深カラサルノ前ヘ
 機ニ衆シ此処置無之テハ不相成ト鄙見茲ニ決シ他
 更ニ餘念無之候議者アリ或ハ曰ン此議然ルヘカラ
 ス何ントナレハ則テ貨幣ハ天下ノ至寶人民信憑ノ
 取タルモノ加之目今外交日ニ盛ナルノ時ナレハ
 特リ内地ノ流通ノミナラス信ヲ海外ニ取ラサルヘ
 カラス然ルヲ我開化猶淺ク工業未タ熟セサルニ早
 ク已ニ外人ヲ謝ス假令平易ヲ以テスルモ歐米ノ士
 民或ハ東方ノ風習概テ如此キヲ以テ之ヲ目シ貶議
 スル所アラニ矧ンヤ彼ノ心ニ快カラサル所ノモ
 ノアルヲヤ如此クンハ則辞去ノ後恣マニ流言シ

テ我カ短ヲ揚ケ他ヲシテ信ヲ失ナハシムルノ術ヲ
 施サンヲ必然如見此時ニ方テ聲譽ト流通トノ間損
 益得失測ルヘカラザルモノアラニ是レ威信上ニ於
 ケル又理財上ニ於ケル大患ヲ招クニアラスヤ且ツ
 方今内外多事加フルニ戒心アルノ時勉メテ外人ニ
 接スル亦タ意ヲ用ヒサルベケンヤ就中東洋銀行ノ
 如キハ維新ノ際ヨリ今ニ至ルマテ理財上我カ為ニ
 スル所アリ我モ亦彼レニ依ラザルナシトセス一旦
 誤案ノ變革ヨリ彼輩ヨシテ圭角ノ念ヲ抱カシムル
 モノアラバ則テ異日悔ユトモ亦及ハザルノ損失ア
 ラン必セリ故ニ其屈スヘキモノハ枉クル所ロアル
 モ亦宜シク屈スヘシ苟モ愛國ノ念アルモノ豈注目
 セザルベケンヤ然ラハ則テ從事ノ諸負皇國ノ為

メ更ニ一層ノ忍耐ヲ能クシ宜シク禍ヲ未萌ニ防ク
ヘシト此言理アルニ似タレトモ鄙見ヲ以テスレハ
大ニ異ナルモノアリ先ツ其初條ニ就テ之レヲ辨セ
ンニ創立ノ初メ三年ヲ豫シメシテ以テ外人ヲ雇フ
後更ニ増ス二年ヲ以テス今又タ之レヲ継カンニハ
二年乃至三年ヲ期セサルヲ不得已ニ此期ヲ過了シ
テ寧ロ噬臍ノ悔ヲ致スアルモ此紛議ナキヲ保タン
ヤ然ラハ則チ只少シク時ニ遲速早晚アルノミ百世
猶期ナシ何レノ日カ我レノ造幣寮タルヲ得ン惟フ
ニ徳當ニ處スルノ切ナルニ過キ專ラ因襲ヲ以テ安
シトシ變革ヲ以テ危シトセハ理財上常ニ獨立政府
ノ威信輕重如何ヲ見ルノ時ナク又タ其工業進步ノ
如何ンヲ知ルニ由シナシ隨テ我レノ美ヲ以テ悉ク

彼レニ歸スルニ至リ猶工事ニ精シキ歐洲ノ名聲ト
資本ニ富ム東洋銀行ノ權勢トヲ假リ候姿ニテ永ク
國體進步ノ真域ヲ見ル能ハス故假令一時一大困難
ヲ歷ルモ之レヲ遂クルノ後今信ヲ中外ニ全クスル
アラバ於是初メテ真ノ御國信ヲ見ルヲ得ベシ因テ
今機ニ乘シ寮員奮發ノ銳ヲ不挫脱然其任ヲ負ハシ
メハ寮務真ニ整頓シ工業上亦過マツ所ナキヲ保
タン其二條ニ於ル稍取ルヘキモノアルニ似タリト
イヘ氏論情ニ偏シテ理ヲ顧ミズ過慮ノ甚タシキモ
ノアリ抑モ今ニ於テ諒察ノ變革アルモノハ敢テ異
トスヘキナシ東洋銀行及其他ノ輩主角ノ念ヲ生ス
ルハ理ニ於テ無キ所口當初三年ヲ約シ後更ニ二年
ヲ繼ク毫モ彼レノ意ニ滿タサルモノナキヤ素ヨリ

言ヲ不俟設使彼ノ意中挾ム所ロアルモ安クンゾ他
日理財上ノ損益ニ關スルモノアラシヤ是議者ノ其
一ヲ知テ其ニヲ知ラサル所ロナリ凡ソ理財ノ道ハ
相與ニ利ヲ主トス故ニ親疎ト好惡トラ論セス營利
ノ有ル所口競テ相趨ムツノミ人ノ利ニ於ケル兄弟
以テ交ルモ亦肯ゼサルモノアリ仇敵相視ルモ亦共
ニスルモノアリ肯セサルモ親睦ヲ害セス共ニスル
モ怨隙ヲ釋カス天下ノ通義亦怪シムヘカラス何シ
ソ慮ルニ足ラン是レ鄙賤ノ以テ已ニ意ヲ決スル所
ニ有之候凡ソ物得失ナキ能ハス之ニ處スルノ際
審案熟慮往ヲ推シ米ヲ察シ以テ得失相照シ得ル所
口多キニ從テ之レヲ斷センノミ此行ノ顛末及鄙見
トモ併セテ致具陳候也
七年九月
大藏

造幣寮四
等出仕

長谷川方省外六名建言

吉田大藏少輔宛

當寮事務ニ關スル東洋銀行及ヒ外國士官備入ノ條
約等今之ヲ整セスト雖悉ク載テ書冊ニアリ然リ而
テ開寮以降已ニ四年ノ久キヲ經テ其鑄造スル所ノ
金額六千万圓ノ上ニ出ツ蓋シ盛ナリト云フヘシ方
省等不肖職ヲ此間ニ奉シ固ヨリ寸分ノ功無シト雖
モ其實際從事ノ上ニ於テ聊カ自ラ喜フ所ノ者ト大
ニ悲歎スル所ノ者アリ其自ラ喜フ所以ノ者ハ何ソ
ヤ曰ク我官負職工稍其事業ニ慣レ試驗秤量ノ法分
析鑄解ノ術ヨリ以テ器械運用ノ技ニ至ルマテ凡ソ
我朝未曾有ノ事業今日ニシテ始テ其端緒ヲ認ムル
ニ至ル是方省等ノ聊カ自ラ喜フ所ナリ其大ニ悲歎
スル所以ノ者ハ何ゾヤ曰ク東洋銀行ノ專横ト首長

欣氏ノ壓制乃チ是ナリ抑モ當寮ニ仕役スル外國人ノ進退ハ終ニ「ブラガ」氏其他兩三名ヲ除クノ外都テ東洋銀行ノ手ニ付シ其衰敗黜陟一モ我政府ノ命ニ因ルモノ無シ殊ニ該銀行ヘ毎歲莫大ノ謝金ヲ付與スルモ亦無益ナラスヤ加フルニ欣氏ナル者平素ノ舉錯我官負ヲ輕侮シ我職工ヲ逆使シ動モスレハ我政府ノ命ニ抗シ益我意ヲ主張シ往々怒罵自ラ忘レ其亡狀無禮實ニ言フ可カラザルモノアリ開寮以降屢寮頭ノ其職ヲ辭スルモ或ハ之レニ因ルモノナラシカ此ニツノモノ方省等悲憤慨歎ノ至リニ堪ハス今夫既往ヲ回顧シ將來ヲ熟思スルニ彼銀行及欣氏條約ノ期限明年四月ニアリ希クハ此際ニ臨ミ大ニ寮務ヲ改正シ我日本政府ノ自立造幣寮タラシメン

ヲヲ其著手ノ概目ハ先ツ銀行ト欣氏ノ約ヲ解キ其餘ノ外人ハ期ヲ逐テ之ヲ去リ其最モ順良ニシテ能ク職事ニ堪ユル者數名ヲ撰ミ之レニ樞要ノ事務ヲ授ケ推限責任其宜キヲ制シ更ニ我政府ト真確ニ條約ヲ結ヒ全ク我政府ノ進退自在ヲ得セシメ其職制ヲ變更シ我官負職工ノ其事ニ堪フル者ハ專ラ其職ヲ任セシメン「誠ニ千歲ノ一時也然レ議者或ハ曰ハン造幣ノ職事タルヤ重且大我日本官吏ノ能ク其事ニ堪フル「甚タ難カルヘシ方省等則チ曰職固ヨリ然リ然レ貨幣ノ重スル所ハ品位秤量ノミ其品量ヲ詳明ニシ此職事ヲ完了スルニ恐ラクハ全局之レヲ外人ノ手ニ委セサルモ亦我人民自ラ其事ニ習熟スル者アラン則チ方省等カ實際ニ於テ知ル所ナリ因

テ熟々顧ミルニ其樞要ナル試験方及ヒ精銅方器械
方等ノ如キハ之レヲ外人ノ手ニ付シ其他ハ皆我人
民ヲ用ヒ彼此互用セハ可ナランカ今閣下幸ニ此地
ニ米臨セリ姑ク察務ヲ實視シ苟モ方省等カ云フ所
ヲ以テ可トナサハ伏テ願フ速ニ之ヲ政府ニ議シ舉
行アラシムヲ方省等其改正ノ概畧ヲ述フ其節目ノ
詳ナルニ至リテハ謁見下問ヲ辱フセハ幸甚方省等
慨歎ノ至ニ堪ヘス敢テ嚴威ヲ瀆冒ス恐懼再拜
大藏

造幣寮 ^{四等} 出仕	長谷川方省	同	推助	久世喜弘
同	推助	大野直輔	同	六等出仕
同	六等出仕	三島為嗣	同	七等出仕
同	七等出仕	足立太郎		

付箋

造幣寮^{四等}
等出仕

長谷川方省初メ外六名

七年八月廿七日

方省等昧死再拜嚮ニ書ヲ吉田少輔閣下ニ呈シ當寮
ノ制規宜シク更正スベキ所以ノモノヲ議セリ今少
輔閣下ノ來歸ニ臨ミ其懇論ヲ蒙リ又重子テ愚衷ヲ
陳述シ謹テ閣下ノ左右ニ進呈ス閣下幸ニ方省等カ
微衷ヲ憐ミ覽觀ヲ賜ヒ以テ 廟堂ノ定議ヲ布キ玉
ハ、獨リ方省等數輩ノ幸ノミナラス抑政府ノ以テ
當寮ヲ維持スル所ノ長策タランカ方省等惟ニルニ
當初當寮ノ設ケアルヤ我國民智見未タ全ク開ケス
碩學偉能ノ士能ク造幣ノ要領ヲ熟知スルモノ有ニ
非ス良工名^右ヲ又以テ其職ヲ慣取スルモノ有ルニ
非ス於是乎凡百ノ事多クハ皆東洋銀行ニ委シ又首
長欣氏ニ任シ稍ニ彼レノ專制ヲ來シ事今日ニ至リ

造幣寮

テ熟々顧ミルニ其樞要ナル試験方及ヒ精銅方器械
方等ノ如キハ之レヲ外人ノ手ニ付シ其他ハ皆我人
氏ヲ用ヒ彼此互用セハ可ナランカ今閣下幸ニ此地
ニ米臨セリ姑ク察務ヲ實視シ苟モ方省等カ云フ所
ヲ以テ可トナサハ伏テ願フ速ニ之ヲ政府ニ議シ舉
行アランコト方省等其改正ノ概畧ヲ述フ其節目ノ
詳ナルニ至リテハ謁見下問ヲ辱フセハ幸甚方省等
慨歎ノ至ニ堪ヘス敢テ嚴威ヲ瀆冒ス恐懼再拜
大藏
七年八月

造幣寮 ^{四等} 出仕	長谷川方省	同	推助	久世喜弘
同	推助	大野直輔	同	六等出仕
同	六等出仕	三島為嗣	同	七等出仕
同	七等出仕	足立太郎		

付第

造幣寮^{四等}
等出仕
長谷川方省初メ外六名
七年八月

方省等昧死再拜嚮ニ書ヲ吉田少輔閣下ニ呈シ當寮
ノ制規宜シク更正スベキ所以ノモノヲ議セリ今少
輔閣下ノ來歸ニ臨ミ其懇論ヲ蒙リ又重子ヲ愚衷ヲ
陳述シ謹テ閣下ノ左右ニ進呈ス閣下幸ニ方省等カ
微衷ヲ憐ミ覽觀ヲ賜ヒ以テ廟堂ノ定議ヲ布キ玉
ハ、獨リ方省等數輩ノ幸ノミナラス抑政府ノ以テ
當寮ヲ維持スル所ノ長策タラシカ方省等惟ミルニ
當初當寮ノ設ケアルヤ我國民智見未タ全ク開ケス
碩學偉能ノ士能ク造幣ノ要領ヲ熟知スルモノ有ニ
非ス良工名^治ヲ又以テ其職ヲ慣取スルモノ有ルニ
非ス於是乎凡百ノ事多クハ皆東洋銀行ニ委シ又首
長欣氏ニ任シ稍ニ彼レノ專制ヲ來シ事今日ニ至リ

テ熟々顧ミルニ其樞要ナル試験方及ヒ精銅方器械
方等ノ如キハ之レヲ外人ノ手ニ付シ其他ハ皆我人
民ヲ用ヒ彼此互用セハ可ナランカ今閣下幸ニ此地
ニ來臨セリ姑ク察務ヲ實視シ苟モ方省等カ云フ所
ヲ以テ可トナサハ伏テ願フ速ニ之ヲ政府ニ議シ舉
行アラシムラ方省等其改正ノ概畧ヲ述フ其節目ノ
詳ナルニ至リテハ謁見下問ヲ辱フセハ幸甚方省等
慨歎ノ至ニ堪ヘス敢テ嚴威ヲ瀆冒ス恐懼再拜七年八月

大藏

造幣寮

四等出仕

長谷川方省

同

推助

久世喜弘

同

推助

大野直輔

同

六等出仕

長谷川為治

同

六等出仕

三島為嗣

同

七等出仕

森

信一

同

七等出仕

足立太郎

付箋

造幣寮
四等出仕

建言

大隈大藏卿宛

方省等昧死再拜嚮ニ書ヲ吉田少輔閣下ニ呈シ當寮
ノ制規宜シク更正スベキ所以ノモノヲ議セリ今少
輔閣下ノ來歸ニ臨ミ其懇論ヲ蒙リ又重子テ愚衷ヲ
陳述シ謹テ閣下ノ左右ニ進呈ス閣下幸ニ方省等カ
微衷ヲ憐ミ覽觀ヲ賜ヒ以テ 廟堂ノ定議ヲ布キ玉
ハ、獨リ方省等數輩ノ幸ノミナラス抑政府ノ以テ
當寮ヲ維持スル所ノ長策ヲランカ方省等惟ニルニ
當初當寮ノ設ケアルヤ我國民智見未タ全ク開ケス
碩學偉能ノ士能ク造幣ノ要領ヲ熟知スルモノ有ニ
非ス良工名匠ノ又以テ其職ヲ慣取スルモノ有ルニ
非ス於是乎凡百ノ事多クハ皆東洋銀行ニ委シ又首
長欣氏ニ任シ稍ニ彼レノ專制ヲ來シ事今日ニ至リ

大隈
勅
額
典

奈何トモシ難キハ蓋シ當時ノ情狀誠ニ然ル可カラ
 カルヲ得サルニ出ツルモノアリテ存ス方今方省等
 職ヲ當察ニ奉シ目視スル所ヲ以テスルニ凡ノ外人
 ノ條約尽ク東洋銀行ノ手ニ成リ其進退黜陟總テ該
 銀行ノ権内ニ在テ政府ト雖又之ヲ誰何スル能ハス
 加之欣氏傲慢自ラ擅ニシ動モスレハ政府ニ抵抗シ
 頗ル專制ノ氣概ヲ逞シフス而シテ闔察ノ工事奉テ
 皆彼レカ手ニ委ス夫レ然リ故ニ名ハ皇國ノ造幣
 寮タリト雖氏其實ハ則然ラス方省等感慨默止ニ思
 ヒス敢テ區々タル衷情ヲ吐露シ以テ當初然ル可カ
 ラサルヲ得サル所ノモノヲ去リ方今宜シク施スハ
 キノ制ヲ立テ將來ノ長策トナサンヲ欲スルナリ
 夫レ欣氏ノ人トナリヤ粗卒暴戾喜怒常無ク姦計百

出職夫ヲ逆使スル奴僕ヨリモ甚シク又我官員ヲ視
 ル輕侮至ラサル無シ朝夕之レト相接シ苟モ氣慨ア
 ルモノ切齒扼腕其暴戾ヲ惡マサルモノアランヤ聞
 シ彼ノ條約期限明年四月ニ在リト政府宜シク此機
 ニ乘シ斷然彼レヲ赦免シ併セテ東洋銀行ノ委託ヲ
 解キ外人ヲシテ皆政府ト新ニ條約セシメハ多年ノ
 弊害モ一朝洗除シ所謂一網打シ尽スノ秋豈亦愉ナ
 ラスヤ豈亦快ナラスヤ果シテ然ラハ論者或ハ曰ン
 欣氏去ル我人民其工業ニ堪フル能ハスト惡是レ何
 ノ言ソヤ造幣ノ事固ヨリ一欣氏ノ進退ニ依リ輕重
 大小ヲナスモノニ非サルナリ其故如何トナレハ方
 今各局ノ官負漸ク其方法ヲ熟知シ職夫等亦大ニ慣
 習ノ切ヲ得タリ加フルニ計算簿記ノ術皆其方法ヲ

明カニシ今日ノ盛ナル敢テ又昔日創業ノ比ニ非ナルナリ今欣氏去ルト雖固ヨリ他ノ外人ヲシテ悉ク去ラシムルニ非ス其用ユ可キモノハ猶且ツ取テ之ヲ用ヒ其去ルヘキモノハ断然之ヲ去ルス如キノミ論者又或ハ曰ン欣氏去ルヤ必ス妬心ヲ鳴シ虚誕百出我貨幣ヲ誹謗シ遂ニ信ヲ海外ニ失ハシムルノ患ヒアラント是レ又決シテ憂フルニ足ラサルナリ凡ソ造幣ノ事務ニ於ケルヤ品位其正ヲ失ハス秤量其方ヲ誤マラザレハ歐ト無ク米ト無ク世界万国ニ對シ毫モ耻ル所アルヲ無シ況ヤ今試験方ノ如キハ猶外人ヲシテ依然其責ニ任セシメント欲スルニ於テヲヤ然トモ方省等以為ラク其大ニ更正スルノ日ニ當リ或ハ一時多少ノ難事ヲ醸サンモ測リ難シ是

固ヨリ方省等ノ顧慮スル所ニシテ預シメ之レニ處スルニ計策ヲ以テセサル可ケンヤ如シ勢止ムヲ得サルニ出ツル時ハ寧數月ノ間閉寮ノヲアルトモ彼等ノ專制暴戾ヲ掃却シ他日皇國自立ノ造幣寮トシ政府ノ特推ニ歸セシメハ豈一大快事ナラスヤ而シテ廟議動カス區々タル嫌疑ニ關シ猶且延期ノ策ニ決セハ縱令少シク彼レノ権力ヲ殺キ或ハ喙ハシムルニ利ヲ以テシ一時姑息ノ約ヲ定ムルトモ彼平素固有ノ習癖再ヒ發シ自ラ制スル能ハス且彼年齡漸ク高ク氣勢日ニ漸ク感リ其暴戾昔日ニ倍スルヤ必セリ然ラハ則一兩年ノ後此事ヲ行フアルモ猶多少ノ紛紜ヲ生セサル無キ能ハス今夫レ一日ノ安ヲ偷ミ因循患ヲ後日ニ譲リ彼ヲシテ依然專横ノ氣

ヲ長セシムルハ断然其機ヲ失ハス一時ノ艱苦ヲ凌
キ精効勉力他日ノ快事ヲ期スルモノト其利害得失
果シテ如何ソヤ今權頭交代ノ時ニ當リ方省等敢テ
不肖ヲ顧ミス猥リニ此大事ヲ議ス頗ル職外ノ事ニ
涉リ戰々慄々ノ至リニ堪ヘスト虽屢少輔閣下ノ下
問ヲ辱シ情ニ於テ止ムヲ能ハス越俎ノ罪ヲ犯シ謹
テ鄙見ヲ別紙ニ條陳シ外人ノ用捨スヘキヲ區分シ
工業ノ凝滯ナキヲ証ス閣下願ハクハ之ヲ裁度シ
當察規則及事務章程ニ矛盾スルモノハ速ニ之ヲ更
正シ以テ將來ノ長策ヲ定メンヲ於是乎造幣ノ事
務初メテ渋滞ノ憂ヒナク綿々絶ヘス連々窮マリ無
ラン方省等不才ト虽氏黽勉カラ尽シ必ス後患アル
ヲ無ラシメント欲ス如シ方省等ノ言容ラレス欣氏

ノ專横昔日ノ如クシハ方省等豈能ク彼ト戴履ヲ同
フスルニ忍ニヤ閣下幸ニ諒察ヲ垂レヨ泣血再拜頓
首頓首 七年八月十七日
大藏

造幣寮四等出仕長谷川方省

同 權助 久世喜弘

同 權助 大野直輔

同 六等出仕長谷川為治

同 六等出仕三島為嗣

同 七等出仕森信一

同 七等出仕足立太郎

大藏大丞遠藤謹助建言

不肖々謹助乏ヲ造幣ニ承ル殆四閱歲加フルニ客年
權頭ノ命ヲ辱フスルニ至リ自ラ短才其任ニ堪サル
ヲ知リ懇辭再三不得命尔來黽勉從事スト雖氏事奉
ラス業進マス上ハ以テ政府無限ノ恩遇ニ報スルナ
ク外ハ以テ國家莫大ノ辱ヲ招ンヲ是恐寐食不甘

ル事既ニ周歲今ヤ何ノ幸ヒカ轉任ノ命アリ尸位ノ
責至ラス而テ及テ此寵任ヲ辱フス感喜ノ極不知所
謝而シテ今謹助造幣ノ事ニ就キ一二獻芹（スル）アラント
ス或ハ謂ハン之ヲ在職ノ日ニ言ワス而シテ去後ニ
収々ス何謬レルヤト此言固ヨリ理アリ然リト雖氏
時未タ至ラス事行レ難キノ際喋々之ヲ論ス徒ニ政
府ヲ煩擾スル耳是謹助ノ遷延今日ニ至ル所以ニシ
テ今ヤ東洋銀行及ヒ首長キントル條約ノ期將ニ至
ラントス是時ニ方リ區々ノ議ヲ憚リ默視以テ腹議
ス苟モ國家ニ志有ル者ノ為_ヲ忍フ所ナランヤ故ニ
敢テ四年間躬行身試スル所ニ就キ一二ノ鄙見ヲ陳
述ス文鄙俗ヲ避ケス語忌諱ヲ冒ス伏願クハ閣下其
不遜ヲ咎メス吐握ノ餘暇一閱ヲ賜ヒ以テ國家ノ万

一ヲ補綴スルアラハ特謹助一人ノ幸ノミナラス併
セテ滿寮有志者ヲ過憂ヲ氷釋シ日後更ニ其成功ヲ
見ル有ラントス

一東洋銀行條約ヲ廢スル事

此議頗ル難事ニ屬スト雖今ヤ條約ノ期將ニ滿
ントスルハ一大好機會ト云フハシ此際ニ方リ
非常ノ雄斷ヲ以決然再約ヲ要セス謝絶スベシ
從前ノ姿ニテハ我日本政府ノ造幣寮ニシテ其
實ハ權利ノ半ヲ彼ニ奪ワレ我政府ニ於テ開閉
張弛ノ權ヲ專有スル能ワス外國人ヲ使役スル
如キ二三計算專（務）者ヲ除クノ外名ハ我政府
ノ雇人ニシテ其實銀行ノ使使タル者ト均シク
總令ハ其人物不適當ナルカ或ハ勤惰過失等尸

ルモ政府直ニ之ヲ黜陟督責スル能ワス一々之ヲ銀行ニ報シ彼ノ承諾ヲ得テ始メテ其事ヲ行フ可ク或ハ若干万圓ノ手数料ヲ與フル而已ナラス貨幣鑄造高ノ千分一ヲ賜ハル等其厚待實ニ非常ト云フ可ク其他我邦別ニ枝葉ノ造幣所ヲ設クルモ亦必ラス銀行ニ諮詢シ事ヲ起ス可キ等ニ至リテハ實ニ我ヲ束縛スルノ甚シキ者ト云ヘシ然リト雖此約タル維新ノ際ニ方リ我邦未曾有ノ大事業タルヲ以其方法節目ニ至テハ學者ト雖モ未タ其理ヲ窮ムル者少ク加フルニ廟堂多事姑ク之ヲ銀行ニ依托ス是不得止ノ理ニシテ當時ニ在テハ固ヨリ事ノ宜シキヲ得ル者タリト雖今日之ヲ見ル其權限實ニ過

大遂ニ政府ノ權利ヲ損スル事細サナラス加フルニ年々許多ノ金額ヲ與フル國計上多少ノ費耗ト云ヘシ故ニ今般條約ノ期満ルニ至リ年来幹旋ノ勞ヲ褒賞シテ斷然再約ヲ要セサルヘシ是將來ノ為メ莫大ノ利益ナルヘシ

附言銀行従前ノ條約廢セザル可カラスト雖外國人金銀地金ヲ輸入スルハ従前ノ如ク銀行ヲメ之ヲ取扱シメ其手数料ハ三井組ト同ク地金代價ノ千分ノ一五ヲ與ヘ其餘寮中所要ノ諸機械諸品ヲ歐洲ヨリ購入シ或ハ貿易銀ヲ東洋地方ヘ輸送スル等ノ「エゼント」トラシムルハ是迄ノ如クスルモ亦妨ナシトス一寮中使役ノ外國人ヲ政府直雇トス事

此議東洋銀行條約廢スルニ至ラハ固ヨリ論ヲ俟サル処タリ万一政府ノ都合ヲ以テ銀行約中一二継行ノヲアルモ此一事ニ於テハ決然政府直雇ニ確定スヘシ然ラサレハ我財ヲ抛ケ人ヲ使役スルノ際勤ヲ賞シ惰ヲ罰スル一切他人ノ鼻息ヲ仰カサルヲ得ス實ニ政府ノ威權ヲ損スル細少ナラス今ヤ我政府外人ヲ雇フ少シトセス恐ラクハ政府直雇ニ非ル者無ラン

一外國首長免職ノ事

外國首長ヲ置キ工業ノ事務ヲ一切彼ニ擔當督理セシムル事創業ノ際ニ方テハ不得止ノ策ニ出テ適宜恰好ノ處置タリ然リト雖既ニ首長アリ又造幣頭アリ其管知スル所各限界アリト雖

之ヲ實地ニ施スニ至リテハ一察中ニ長官アルカ如ク我章程ヲ踐行セントスルハ彼條約ヲ主張シ其權限ノ間往々抵觸アルヲ免レス若一々其權ヲ相爭ニ於テハ徒ニ紛議絶サルノミナラス吏カ為メ百事壅塞事務奉ラス遂ニハ政府ノ不益ヲ醸成スルノ憂ナキ能ワサルヲ以寧ロ我ヲ曲ケ彼ニ從ハザルヲ得サルノ勢アリ章程ヲ踐行セサル何ヲ以テ政府委任ノ責ヲ塞ガン之ヲ踐行セントス目下ニ窒礙ヲ生ス造幣頭タル者實ニ至難ト云ベシ今ヤ察中ノ官吏及職工業稍工等ニ慣熟ス必スシモ首長ヲ置テ要セス幸ヒ明年條約ノ満ルニ際シ斷然之ヲ罷メ日本官吏ヲ各其職ヲ尽サシメハ謹助ノ愚見ヲ以テ

スルニ決シテ工業舉ラサルヲ憂ヘス造幣頭モ亦掣肘ノ憂ナク十分ノ才力ヲ奮ヒ章程ヲ踐行スルヲ得ハ事務ノ舉ル及テ首長ノ有ルニ勝ルモノアラシ

一外國人負ヲ減スル事

方今金銀地金ノ輸入漸次減少出入相償ワサルノ際冗費ヲ省キ贅負ヲ減スル今日ノ最大急務タリ而シテ察中外國人ノ如キ今日ヲ以之ヲ見ル其要スル所分析家一人精銅方一人極印方一人機械方一人ニテ事足レリトス其他溶解伸金。極印彫刻。硫酸製造伸銅。計算秤量ノ如キ我邦人既ニ之レニ代リ其事ヲ了スルニ足ル一切之ヲ放免スル亦惜ムニ足サルナリ

一諸局長ニ工業ノ任ヲ擔當セシムル事

是迄外國首長工業一切ノ事務ヲ擔當セルヲ以諸局ノ長タル日本人ハ當ニ計筭上ノ責ヲ任スルノミニシテ工業ノ事ニ關スルヲ許サス故ニ傍觀默視唯彼ノ為ル所ニ任スルノ外他ナシ其尤困難ナル者ハ已レ計筭ノ任ヲ負ヒ地金ヲ管守スルノ責アリ而ノ之ヲ工業ニ附スルニ至テハ一切外國人ノ為ス所ニ任セ已レ之ニ關スルヲ得ス万一闕減アルニ至ルヤ其工業ニ關セル外國人ハ反テ憊然傍觀毫モ顧慮スル所ナシ而シテ計筭方タル者之ヲ督責訊問スルノ權ナク已レ一人其責ニ任セサルヲ得ス是困難ノ最大ナル者トス故ニ尔米外國人ヲ使用ストモ其局

中ノ工業計算ハ其局長ノ擔任トシ万一減欠等
アルニ當テハ外國人モ亦其責ヲ分任スルトセ
ハ名實相適シ枝梧ノ憂ナキニ災カラシカ

右ハ唯其概畧ヲ舉ル耳瑣々ノ節目ニ至テハ枚舉
スルニ暇アラス而メ又熟考ス銀行ノ條約ヲ廢シ首
長ノ職ヲ罷ムル等固ヨリ條約ニ根據シ我ニ於テ一
點ノ曲ナク彼ニ於テモ亦更ニ異議ヲ容ルヘキニ非
スト雖事頗果決一時面目ヲ改ムルヲ以或ハ外國人
ノ謗議ヲ招キ困難ノ極閉察以テ事ヲ所置セサルヲ
得サルノ勢ニ至ランモ亦測ル可ラス万一事斯ニ至
ラハ其餘波或ハ紙幣ノ流通ニ障礙ヲ生センカ是寂
可恐ノ事タリト雖氏管見ニテ其利害得失ヲ豫定スル
能ハス唯々於謹助ハ今日ヲ失セハ謝絶ノ機會急ニ

不可得トノ過慮ヨリシテ不憚忌諱尺寸ノ微衷ヲ吐
露ス冀クハ閣下猶之ヲ察中有志者ニ下問シ 廟堂
遠大ノ高議ヲ尽サンコトヲ無任千祈万禱ノ至恐懼謹
言 七年八月
大藏

各局條陳見込書

計算課 外國人 ブラガ
スウエビー

此課ハ金銀貨幣ヲ鑄造スルニ都テ其計算ヲ全フシ
造幣事務取扱規則ニ隨ヒ和英兩様ノ文字ヲ用ヒ簿
冊ヲ二様ニ製シ和文ハ乃々三島為嗣之ヲ司リ英文
ハ「ブラガ」之レカ主任トナリ「スウエビー」之カ副トナ
リ各此事ヲ管理セリ然氏今般察務更正ノ秋ニ際シ
右取扱ヒノ規則モ改定アリテ其煩冗ナル者ハ之ヲ
省キ單一ノ法ヲ設ケ從來ノ官負協力同心其職務ヲ

尽スニ於テハ毫モ差問ヘ無ルヘシ殊ニ「ブラガノ如
キ其人ト為リヤ奸佞狡黠ニシテ内外官負ノ間ニ於
テ互ニ相猜忌セシメ動モスレハ其紛紜ヲ生スルモ
ノ多クハ彼ノ手ニ出スト云フ若シ欣氏放免ノ後ニ
於テ彼益跋扈其奸ヲ逞セハ又一小欣氏ヲ生スルト
一般ニテ右同課ノ官負ハ固ヨリ彼ノ爪牙ニカ、ル
果シテ多カルヘシ寧口速ニ條約ニ記ス如ク賞金ヲ
付與シテ之ヲ放免セン上策ナリ已ムヲ得サレハ
米明治八年十二月ノ満期ヲ待テ之レヲ處分シテ可
ナラン「スウエビー」ノ如キ其人ト為リ可モナク不
モナシ固ヨリ其満期ニ至リ之ヲ處分スルトモ遲シ
トセス特ニ此課ノ如キハ将来外人ヲ要セサルベシ

試験局 外國人 ラサロ
ハンター

此局ノ如キハ寮中取モ緊要ノ職務ニシテ其關係ス
ル所甚タ重シト云フ可シ因テ従前ヨリ仕役スル「デ
井ロシ」パンター」ノ如キハ學術相當ノ者ニ付其終雇
繼キ其餘約責任ノ如キハ稍更正ヲ加ヘ更ニ日本政
府ヘ仕役スル者トナシ若シ其職掌上ニ於テ過失ノ
ヲアル時ハ適當ノ罰則ヲ設ケ之ヲ処置シ二人共聊
其給料ヲ増加シ下ニ列スル金銀熔解局ノ事務ヲ兼
理セシムヘシ

但日本官負及ヒ職負ノ其事ニ堪ユル者ヲシテ其
工事ニ預カラシムヘシ

金銀熔解局 外國人 アットキン

此局事務ノ如キハ試験熔解或ハ品位既ニ定マリタ
ル金銀ヲ熔解シ銅ヲ加ヘ之ヲ能ク混和ヒシメ貨幣

ニナス可キ者ヲ製シ之ヲ伸金局ニ送致スル迄ノ手
續ニテ「アツトキン」開業以來既ニ此局ニ従事セリ然
氏此局ノ事業ニ於ケル往々外人ヲ要セス日本官負
職工ノ擔任トナシ同氏ノ如キハ其人物可否スル所
ナシト雖其條約満期ヲ待チ之ヲ放免シ差支ナカル
ヘシ尤モ前ニ掲ケシ試験方「デ井ロシ」「ハンター」ノ兩
人ヲシテ此局ノ事業ニ關預セシムヘキヲ要用ナリ
伸金局 外國人 マンチ子 無條約期限

此局ノ如キ必ス外人ヲ要セストモ差支ヘナカルヘ
シ尤モ其器械ノ補理等ハ蒸氣機關方ヲシテ魚務セ
シメ其他地金ヲ壓伸シ又之ヲ壓鑿スル等ハ十分我
日本官負及ヒ職工ノ手ニテ足ルヘシ従前此局ニ従
事スル「マンチ子」ハ其人物可モナク不可モナシ因テ

時ヲ見計ヒ放免スルトモ又ハ永ク其職ニアラシム
ルトモ差支ヘ勿ルヘシ

秤量局

此局ノ如キ「スミス」解職ノ後ハ欣氏ノ書記官「ウ井ラ
」之レカ管理ヲナセリト雖外人ノ事ニ關スル迄ニ
テ其伎倆未タ如何ヲ知ラス全賸日本官負ニテ事十
分ニ足レリトスヘシ彼ノ「ゴットン」バランスノ補理
等ノ如キハ「マクラゴン」或ハ工作所ニ従事スル大野
規周ニ命シ毫モ差支ナカルベシ

焼生局 極印局 外國人 ワ井ラン

此二局ノ事務タル日本官負及ヒ職工ノ其事ニ慣ル
、者ニ命シ差支ナカルヘシ尤モ從來仕役スル「ワイラ
ン」雇繼クトモ妨ナカルヘシ

彫刻所 外國人 シヤルド

此局ノ如キ将来外人ヲ要セス「シヤルド」ハ満期ヲ待
チ放免スヘシ彫刻ハ加納夏雄其他日本職工ニテ充
分足レリトス

蒸氣機關所 外國人 「マクラゴン」

此任稍重大ニ涉リ全局用フル所ノ蒸氣機關ヲ注視
看護スルニ依リ従前仕役スル「マクラゴン」ヲ雇繼キ
其條約ヲ更正シ日本政府ニ對シ責任ヲ有セシメハ
可ナラン

製作所 外國人 同上

此局従前ノ通「マクラゴン」ヲシテ其職ヲ司ラシムヘ
シ同人ノ如キ諸局ノ「マクラゴン」ヲ兼テ其任又重シ依テ條約
改正ノ時ニ至リ其給料ヲ増加スヘシ

硫酸製造所 外國人 フサシチ

硫酸ノ如キ現今盛ニ製造スレバ全國其用ニ乏シキ
故従前製造ノ分既ニ庫中ニ充滿シ當分差支ナカル
ヘシ殊ニ其工業タルヤ甚タ難キニ非ス北分析所長
官久世喜弘ニ兼任セシメ「フサシチ」ハ其満期ニ至リ
之ヲ放免スヘシ同人ノ性質タルヤ粗卒懶惰其職務
ヲ勤メス且人品頗ル下等ニシテ一局ニ長タルニ足
ラス幸ニ明年六月ノ満期ヲ待チ之レヲ放免スヘ
シ

銅錢局 外國人 カウランド・スミス・ハウレ
ット・オ・シン・ブラガ

此局固ヨリ本寮ノ一部ニアリト雖一種獨立ノモノ
トス其關係スル所廣シト云フヘシ曰ク精銅曰ク熔
銅曰ク伸銅曰ク極印曰ク地金計算其仕役スル所ノ

外人「カウランド」ハ學術相當ノモノニテ專ラ精銅熔銅ノ「ニ」關シ勉強其職ニ堪ヘタルモノトス「ハウレツト」ハ極印「スミス」ハ伸銅「ブラガ」ハ地金計算各其事ニ從フト雖此局樞要ノ事件ハ精銅熔銅ノ二事ニ止マルヘシ其他ハ皆尋常ノ工事ニシテ敢テ外人ヲ要スルニ及ハス漸次期ヲ待テ放免スル可ナラン尤極印「カウランド」如キ本寮極印局ト兼用シ一人熟練ノ外人ヲシテ之ヲ管理セシムルヲ可トス且「カウランド」ハ此局樞要ノ職務ニ關スルナレハ今般條約改正ノ時ニ臨ミ一層責任ヲ重クシ其給料ヲ増加スル可ナラン

地金局 北分析局

貯藏局 工作局

此四局ノ如キ都テ日本官員ノ從事スル所ニシテ曾テ外人ノ其事ニ關係スルモノナシ

營繕課

此課造幣頭ノ所轄ニアリト雖其工事ニ至リテハ專ラ欣氏ノ裁決ニアラサレハ勤ク「能ハス本寮諸建築及ヒ修繕ノ如キ都テ欣氏ノ指揮ニ從ヘリ尤右欣氏放免ノ後ハ十分日本官員ニテ差支ナカルヘシ大藏

人名	雇入年月	満期	報告時限	摘要
スウエヒー	千八百七十一年十一月十四日ヨリ三年	七十四年十一月十三日マテ	七十四年五月十三日	三ヶ年期限及其後三ヶ月前職シムルハ六月以前ノ報告ヲ要スヘシ
ウ井ラー	七十二年十二月十二日ヨリ三年	七十四年十二月十一日マテ	七十四年六月十一日	三ヶ年期限及其後三ヶ月前職シムルハ六月以前ノ報告ヲ要スヘシ
ワイタン	七十二年一月八日ヨリ三年	七十五年一月七日マテ	七十四年七月七日	三ヶ年期限及其後三ヶ月前職シムルハ六月以前ノ報告ヲ要スヘシ
ハンター	七十二年三月六日ヨリ三年	七十五年三月十五日マテ	七十四年九月廿五日	三ヶ年期限及其後三ヶ月前職シムルハ六月以前ノ報告ヲ要スヘシ

キンドル	七十年四月廿九日	七十五年	七十四年	同前
アットキン	同前	同前	同前	同前
シャールド	同前	同前	同前	同前
シムブラガ	七十二年七月一日ヨリ三年	七十五年六月三十日マテ	七十五年一月一日	同前
フインチ	七十二年六月三十日ヨリ三年	七十五年六月廿九日マテ	七十四年十二月廿九日	同前
ゴラン	七十二年十一月八日ヨリ三年	七十五年十一月七日マテ	七十五年五月七日	同前
ブラガ	七十一年八月一日ヨリ	七十五年十二月廿一日マテ	七十五年六月廿九日	同前
デ井ロン	七十三年三月廿九日ヨリ三年	七十六年三月廿八日マテ	七十五年九月廿七日	ウ井ラート同シ
ハウレット	七十三年五月五日ヨリ三年	七十六年五月四日マテ	七十五年十一月四日	同前
マクラゴン	七十二二年十二月一日ヨリ	無期限	無	三ヶ月前ニ報告スルハ何時ニモ免ラヌハ
ロハートスミス	七十三年十一月十七日ヨリ	同前	同前	同前
マンチ子	七十年四月ヨリ	同前	同前	同前

附
報
告
ノ
時
限
日
ヨ
リ
日
ヲ
以
テ
算
ス
ル
時
ハ
上
ニ
掲

ケシ如ク全六ヶ月ノ全數ニ當ル凡テ西洋ニテ
條約面何ヶ月トアルハ前後兩月ノ端數ヲハ除
キ去リ全ヶ月數ヲ以テ算シ日數ニテハ算セサル
モノモアリシ由繼令ハ今「スウエツビー」ノ條約満
期ヲ來年一月十五日迄トセンニ日數ヲ以テ算ス
レハ七月十五日ヨリ一月十五日迄ニテ全六ヶ
月ニ當レ氏一月ハ十五日迄ノ端數ヲ切り捨テ七
月ハ十五日迄ノ端數ヲ切り上ケ七月一日ヨリ十
二月三十一日迄ノ月數ヲ以テ算スル類ノ如シ依
テ今「スウエビー」ヲ免職センニハ六月三十一日迄
ニ報告セサレハ不可ナリトス右ノ如ク日數ヲ以
テスルト月數ニテスルトノ誤リヨリ歐米其他ヘ
留學ノ生徒等往々彼レノ苦情ヲ起コシ到底多少

ノ金ヲ貪ホラレ候哉ニ付為念附箋ヲ以テ贅陳仕
候 大藏

左院議案 財務課主査

大藏省伺造幣寮處分并御雇首長洋人キンドル儀從
米自恣傲慢種々不都合ノ及処行同寮長官始職工人
ニ至ル迄テ苦情有之ニ付大藏少輔吉田清成上坂實
際ノ行跡探知ノ上別冊縷々具狀及長官以下建議ノ
書類併テ審議候処此際造幣寮獨立ノ処分至當ノ建
議ニ有之恰モ條約ノ期限ニ至リ職責一致奮發此建
議ニ及假段誠ニ不可失ノ機會ニ候間至急伺ノ通處
分可致旨御許可相成候方ト奉存候也 九月廿日
大藏

二月廿四日 八年

造幣寮首長キンドル等放免ノ後寮中庶務ヲ釐革シ
處順序外國人職務要件等ヲ定ム

大藏省上申

客歲中追々上陳仕置候通當一月三十一日限リ大坂
造幣寮雇外國人ノ内首長キンドル始其他不要ノ者
共辭約放免ニ付テハ二月一日以來事務上ノ權制等
モ自然改正不致候テハ不相叶儀ニ付從前同寮へ相
違置候事務取扱規則其他兩件別冊甲乙丙号ノ通候
處自今別冊丁戌号ノ通改正仕甲号事務取扱規則ハ
断然相廢可申存候將又先般雇繼御許可相成候外國
人共ハハ兼テ上申仕置候命令書造幣權頭ヨリ本人
共ハ夫々為相違請書差出候際顧問役兩人へ更ニ別

冊外國人職務要件已号ノ内夫々其職務ニ應シ為相
渡各遵奉為致候答決定候間即今造幣權頭へ夫々相
達来二月一日以降施行ノ答ニ可取計奉存候依之別
冊相添此段豫メ上申候也 一月十日
大藏

上申ノ趣聞届候事 二月廿四日

中号 造幣寮事務取扱規則 従前ノ分
將來廢止

日本政府ニテ現今歐羅巴各國及ヒ米利堅等ニ行ハ
ル、普通ノ條規ニ倣テ造幣寮ヲ建置シ新貨幣ヲ鑄
造スルタメ貨幣鑄造ノ製規方法及ヒ器械運用等ノ
事ニ熟達セシ外國士官ヲ約條書ヲ以テ雇入レ寮中
諸簿冊ノ製及ヒ其計算法ヲ設為スル等ノ權ヲ附与
シ而シテ其約條ニ基キ政府又ハ内外人民ノ差出ス
地金ヲ寮中ニ受取其品位量目負數等政府ノ制定ニ

從テ之ヲ外國士官ニ通達シ其地金ヲ引渡シ製貸ヲ
受取ル等ノ事ヲ總管スル為メ日本政府ヨリ日本士
官等ヲ寮中ノ職負ニ任シタリ

外國士官ト日本士官ト互ニ其職掌ヲ奉行スルニ於
テ相聯合シテ相悖ラサル事ヲ要スルカ為メ各其職
務上ニ就テ關係スル要件ヲ次ノ條款中ニ掲載シテ
以テ其要旨ヲ著明ス凡ソ此職ニ在ル者ハ能ク之ヲ
確守スヘシ

外國士官等ノ司掌スル事務ヲ總稱シテ工業局トシ
日本士官等ノ司掌スル事務ヲ總稱シテ計算法局トス
但工業局トハ學術ヒツクニ施行 エキガケ工業
チーフ
レ一チノ諸局ヲ指令スルナリ

第一則 日本政府又ハ内外一般ノ人民ヨリ差出ス

牙ノ金銀地金ヲ受取リテ之ヲ監守シ之ヲ貨幣ト
為シテ拂ヒ渡スカ又ハ地金ノ終ニテ返却スル等
ノ事ヲ取扱フハ日本士官ノ職掌タルヘシ

第二則 外國士官ノ居住スル家屋ヲ除クノ外造幣
寮及ヒ附屬ノ諸屋宅ハ都テ日本士官ノ管轄タリ
故ニ総賅ノ貨幣及ヒ鑄造中ノ金銀地金ハ皆其管
轄スル庫中ニ収メテ其出納ヲ詳記スル等ハ日本
士官ノ職掌タルヘシ依テ地金又ハ貨幣鑄造ヲ取
扱フ局々ニ於テ其計算ヲ掌ルタメ日本士官ヲ以
テ計算記載役ニ任スヘシ

第三則 要用ナル日本職工ヲ使役シテ地金ヲ品定
整頓シテ以テ貨幣ヲ鑄造スルハ外國士官ノ職掌
タリ最モ此士官等ハ外國士官首長ノ指令ニ從フ

モノナリ且其首長ハ日本人外國人ヲ不論同人ノ
管下ニ屬スル分ハ其事業ニ就テ要用ナルカ又ハ
已レ之ヲ良トスルニ於テハ便宜諸規則ヲ設立ス
ルノ權アルヘシ

第四則 各局ニ在テ計算ノ事務ヲ取扱フ日本士官
ニ就テ詳整ナル諸規則ハ造幣頭之ヲ設立スヘシ
最モ兼テ約條書ニ從テ時々外國士官首長ノ設ク
ル規則ト抵觸セサル様注意スヘシ

第五則 造幣規則ニ從テ貨幣鑄造ノ為メ造幣頭ヨ
リ外國士官首長ハ各種ノ地金ヲ交附シ其鑄造ス
ヘキ貨幣ノ分量品類ヲ時々詳明ニ告知スヘシ

第六則 右地金ヲ交附スルニハ造幣頭ヨリ地金局
長ニ命シ其手ヲ經テ取扱ハシメ其量目ヲ掛改メ

ノ上規則ニ從テ之ヲ簿冊ニ登記シ置シム可シ且
又外國士官首長ノ設ケタル規則ニ從テ各局ニ在
テ地金出入ノ計算ヲ明ニシ之ヲ簿冊ニ詳記シ及
ヒ地金交収ノ諸証拠書等ヲ取扱フ処ノ日本士官
ハ都テ造幣頭ノ管下タルヘシ

第七則 各局ニ在ル計算記載役ヨリ差出シタル諸
証拠書ニヨリ計算ノ事ヲ便利ナラシメンタメニ
英文ヲ以テ完備ノ簿冊ヲ編成スル事ヲ掌ル一人
ノ士官ヲ任シ其事ヲ取扱ハシムヘシ此簿冊ハ毎
日出納ノ查合決算ヲ要スヘシ此簿冊ハ何時ニテ
モ外國士官首長ノ検査ヲ受ケ若シ整理セサル事
アレハ右首長ヨリ之ヲ造幣頭ニ告知スヘシ此簿
冊ハ何様ノ事故アルモ其局外ヘ携出スルヲ許

サス

第八則 英文ニテ記載スル計算簿冊ノ照憑ヲ為シ
タメ其事ニ堪ユル日本士官ヲシテ其證據書ノ原
文ヲ根柢トシテ日本文ニテ計算簿冊ヲ記載シ置
クヘシ但此事ヲ為スニ便ナルカ為メニハ右ノ証
拠書ハ双方ノ國文ヲ以テ之レヲ聯記セシメタ
リ

第九則 總テ簿冊中ノ文字ヲ刷消シ又ハ補綴シア
ル部所ヲ切取ル等ハ嚴禁トス之ヲ犯ス者ハ其職
ヲ免スヘシ且又諸規則検査既済ノ後ハ決シテ之
ヲ塗抹改竄スヘカラス及ヒ諸證據書記載済調印
ノ後ニテ之ヲ書改ムルヲ得ヘカラス

第十則 總テ計算局ト工業局ト公事ノ往復ハ造幣

頭ト外國士官首長ト之ヲ取扱ヒ書面ヲ以テセシ
時ハ互ニ其回答ヲ稽延スルヲナカルヘシ

第十一則 火曜日ヲ除クノ外々来入ハ一切造幣寮
中ニ入ルヲ許サ、ルヘシ

竊モ允許ノ日ニ當リテ一覽ヲ得セシムル者ト云
氏造幣頭又ハ外國士官首長若クハ大藏卿輔ノ免
許狀ヲ持參シ且其タメニ設ケタル簿冊ニ其姓名
ヲ記載セシムヘシ

皇國政府ノ命ヲ以テ右規則ヲ承認シテ確定スル者
也大藏

明治四年辛未五月廿八日 西洋千八百七十一年第七月十五日

參議從四位大隈重信
大藏少輔從四位伊藤博文

乙号 事務施為方法概畧 從前ノ分

一明治四年辛未五月十日即チ西洋千八百七十一年
第六月廿七日附政府布告書ノ趣ニ從ヒ地金受取
方ヲ為スヘシ

一何人ヲ不論造幣寮ヘ差出サント欲スル地金ノ巨
細ヲ書入ヘキ引渡目錄ノ雛形ハ申立次第相渡ス
ヘシ

一地金ヲ受取リシ節ハ假ノ受取書ヲ渡スヘシ但第
一号ノ雛形ヲ見ルヘシ

一若試驗熔解ヲ要スル地金ナル時ハ外國長官ノ申
立ニ依リ熔解所ヘ渡スヘシ而シテ第二号熔解記
書ヲ以テ巨細ノ事ヲ計算方ニテ書キ留メ置クヘ
シ

試驗熔解記
書第二号ノ
雛形

試驗表第三
号錐形ノ事

外國長官第
四号試驗表
ノ事

價分明ナル地金
ノ事
第五号錐形
ヲ見ルベシ

一試驗熔解ノ後試驗方ヨリ第三号ノ錐形通り外國
長官ヘ試驗表ヲ差出スヘシ右受取ノ上外國長官
ハ地金ヲ受クヘキ旨ノ書翰ヲ認メ地金ノ價ヲ取
調ヘ之ヲ定ムヘシ此書翰ハ外國長官記名シテ試
驗表ノ寫_通但ニヲ添ヘ造幣頭ヘ送ルヘシ
一試驗熔解セシ地金塊ヘハ極印并ニ番號ヲ打テ目
方并ニ品位ヲ刻シ置クヘシ而シテ後之ヲ地金局
ヘ送達スヘシ是ニ於テ試驗熔解ノ證書ヲ決算ス
ヘシ
一量目并價ノ知レタル地金ト雖其地金ヲ試驗ノ
上証明シ地金ノ價取調方ニ便宜ヲ外國長官ニ与
フル為メ試驗方ノ表并其他ノ書留メヲ同人ヘ送
ルヘシ其後取前ノ如ク地金ヲ受取ルヘキ旨ノ書

價分明ナル地金
ノ事
第五号錐形
ヲ見ルベシ

試驗ノ為メ受
取リシ小片受
取書ノ事

翰ヲ認メ試驗表ト共ニ造幣頭ヘ送ルヘシ
一地金局ニアル金銀塊ヨリ試驗ノ為メ切取リタル
小片ヲ試驗方ニテ試ミシ上ハ價不分明ナル地金
モ右同様ノ手續ヲ以テ受取ルヘシ而シテ試驗方
ハ外國長官ヘ其試驗表ヲ差出スヘシ外國長官ハ
取前ノ如ク造幣頭調印ノ為メ地金ヲ請クヘキ旨
ノ書翰并試驗表ヲ送ルヘシ
一成ヘク大ケ試驗ノ為メ受取ルヘキ小片ノ地金受
取書ヲ差出スヘシ残り地金ハ急速ニ地金局ヘ送
達スヘシ
一分拆方_セウエツトエスニ於テ面倒ヲ生スヘシト雖
氏試驗ノ為メ受取リシ金屬ヲモ延引ナク試驗方
ヨリ送達スヘシ

造幣頭職掌
ノ事

造幣寮精
製所ノ事

仕事場各局
ノ事

造幣頭職掌

一精製シタル地金ノ價外國長官ニ依テ認認セシ後
造幣頭ヨリ地金持参人へ自分記名セシ地金ヲ受
クヘキ旨ノ書翰并ニ其節ノ都合ニ寄リ日本語或
ハ英語ニテ認メタル試験表寫ヲ送ルヘシ若其書
類ヲ三日ノ餘地持参人ノ手ニ留メ置ク時ハ其ノ
地金ノ價高ヲ承諾セシ者ト看做シ古地金ヲ貨幣
鑄造ニ取掛ル事ヲ得ヘシ
一造幣寮精製所ニ要スヘキ地金ハ外國長官ヨリ書
面ヲ以テ造幣頭ニ掛合テ之ヲ受取ルヘシ
一仕事場各局ニテ地金ヲ要スルキハ外國長官ヨリ
造幣頭ヘ右渡方ノ掛合ヲ為スヘシ
一鑄造セシ貨幣ハ外國長官許諾ノ上地金局ヘ引渡
スヘシ其貨幣ヲ翌朝地金局ニ於テ計算シ改メヲ

為スヘシ其節向來試験ノ為メニ右貨幣ノ内ヲ政
府ノ命令ニ從テ取除ケ置クヘシ
皇國政府ノ命ヲ以テ右施為方法概畧ヲ承認シテ確
定スル者也 大藏

明治四年辛未五月廿八日 西洋千八百七十一年第七月十五日

参議院四位大隈重信

大藏少輔院四位伊藤博文

丙号 毎年製貨試験分拆定則 従前ノ分

第一條 日本政府ノ造幣寮ヨリ發弘スル貨幣ノ品
位法則通りニ過正ナルヤ否ヲ検査スル為ニ毎年
一度造幣寮ニ於テ試験分拆ヲ為スノ集會ヲ催ス
ヘシ

第二條 此集會ヲ全權ハ大藏卿輔ノ一人ニシテ其

他ハ日本政府ニ勤仕スル日本士官并ニ分拆學術ヲ心得タル中外ノ者ヲ其時ニ當リテ政府ヨリ擢シテ此會ニ臨マシムヘシ

第三條 此集會、為ニハ造幣頭兼テ其用意ヲ為シ都テ鑄造ノ貨幣外國長官ニ依テ造幣頭ニ引渡ス度毎ニ造幣頭ハ各種ノ貨幣若干個ヲ自ラ取除キ之ヲ外國長官ノ眼前ニテ封包シ造幣頭ト外國長官ト共ニ其封印ヲ為スヘシ

但造幣頭右貨幣ヲ取除ルニ付テハ他人之ニ關係スルヲ得ス

第四條 右封印セシ貨幣ニハ日本語并英語ニテ其種類負數及受取リシ日限其外巨細ヲ認メタル書付ヲ添ヘ地金局ニアル筐中ニ入レ置キ兩方ノ長

官立合ノ上ナラテハ決シテ之レヲ開クヘカラス

第五條 毎歲試驗分拆ノ為メ備ヘ置ク各種ノ貨幣ハ地金局長ニテ之ヲ預リ而シテ右貨幣ノ負數種類并封印ノ日限等其為メニ別段設ケタル帳面ニ書留メ置ヘシ

第六條 廿圓金拾圓金五圓金ハ千枚毎ニ一枚宛ニ圓金一圓金ハ五千枚毎ニ一枚宛ヲ造幣頭取除ケ置クヘシ

第七條 一圓銀ハ五千枚毎ニ一枚宛ヲ取除ケ置クヘシ

第八條 銀定位貨幣ハ其品類ニ不拘貨幣負數二千枚毎ニ一枚宛取除ケ置クヘシ

第九條 毎歲試驗分拆ノ節列席ヲ命セラレシ諸士

官ハ其當日造幣寮ニ集會スヘシ

右士官等ノ目前ニ於テ造幣寮試験方其手續ヲ為
スヘシ其節政府ノ存意ニ依リ造幣寮試験方ト共
ニ其事ヲ取扱フタメ別ニ試験方ヲ任スルヲアル
ヘシ

皇國政府ノ命ヲ以テ前條試験分拆ノ規則ヲ設立ス
ル者也

明治四年辛未五月廿八日 西洋千八百七十一年第七月十五日

参議院四位大隈重信

大藏少輔院四位伊藤博文

事務施為方法概畧改稱

丁号
造幣處務順序 改正草案

一明治四年辛未五月十日即チ西曆千八百七十一年

第六月廿七日附政府ノ布告ニ基キ今般改正造幣
規則第一條ノ通り金銀地金ヲ受取ルヘシ

一内外人民ヲ不論造幣寮ヘ地金ヲ輸入セシ時ハ地
金局長ヨリ收受取書ヲ其輸入人ヘ渡スヘシ

一品位未定ニテ試験鑄解ヲ要スル地金ナル時ハ試
驗鑄解書ヲ以テ地金局ヨリ鑄解局ニ輸送シ之ヲ
計量課ニ報スヘシ

一試験鑄解セシ地金塊ヨリ小片ヲ切取り分拆シテ
品位詳明セシ上其塊ヘ記号番号地金標目ノ番號
ト目方并ニ品位トヲ極印シ之ヲ地金局ヘ返達シ
テ試験鑄解証書ヲ決算スヘシ

一品位詳明ナル地金ト虽氏試験方ニテ若シ照査ノ
為メ試験「チエツキアスセ」ヲ要スル「アレハ地

金局ニ於テ其分拆片ヲ切取り試験方ニワタスベシ

一精製局ニ於テ已ニ精製ヒシ地金モ同様地金局ニ於テ小片ヲ切取り之ヲ試験方ニ送ルヘシ

一右分拆片ハ時々受取書ヲ差出シ置キ退テ地金局ヘ返達スヘシ

一濕法分拆ニ於テハ多少困難アリト雖モ試験ノ為メ受取リシ金屬ハ退々之ヲ還源セシメ成丈ケ連ニ返達スヘシ

一各種ノ地金試験分拆済ノ上ハ試験方ニテ速ニ分拆表ヲ作り調印シテ之ヲ造幣頭ニ差出スヘシ造幣頭ハ右分拆表ニ因リ地金勘定書ヲ製シ之ニ調印シ其分拆表ノ寫ヲ添ヘ之ヲ輸入人ニ送り承諾

ノ上其地金ヲ受取ルヘシ

但右勘定書ヲ三日ノ餘輸入人ノ手ニ留メ置ク時ハ承諾ヒシ者ト看做シ鑄造ニ取掛ルヘシ

一鑄造セシ貨幣ハ顧問役ニテ之ヲ検査シ報告書ヲ造幣頭ヘ差出シ造幣頭承諾ノ上地金局ヘ引渡スヘシ地金局ニ於テハ更ニ其貨幣ヲ計算シ詳細ニ検査ヲナスヘシ而シテ将来試験ノ為右貨幣ノ内ヲ規則ニ随ヒ取除キ置クヘシ

右 皇國政府ノ命ヲ以テ右規則ヲ承認シテ確定スル者也 大藏

明治八年一月

大藏卿 大隈重信

毎年製貨試験分拆定則 改正草案

第一條 日本政府ノ造幣寮ヨリ發行スル貨幣ノ品

位其法則ニ適正ナルヲ否ヲ検査スル為ニ毎年一度造幣寮ニ於テ試験分拆ノ集會ヲ催スヘシ

第二條 此集會ノ全權ハ大藏卿輔ノ一人ニシテ其他集會ヲ命セラレシ諸官負并ニ中外人民ノ内分拆學術ヲ心得タル者ヲ其時ニ當リテ政府ヨリ輪擇シテ此會ニ臨マシムヘシ

第三條 此集會ノ為ニ都テ鑄造ノ貨幣ハ極印局ヨリ之レヲ受取ル度毎ニ地金局中ニ於テ右局長ハ試験方立會ノ上各種ノ貨幣若干箇ヲ取除ケ直ニ之レヲ造幣頭ノ眼前ニテ緘色シ則チ地金局長ト試験方ト共ニ其封印ヲナシ造幣頭ハ之レニ檢印シテ自ラ預リ置キ右貨幣ノ負數種類并封印ノ月日等別ニ設ケタル帳面ニ書留メ置クヘシ

但右貨幣ヲ取除ケ之レヲ緘封スル等ハ他人之レニ關係スルヲ得ス

第四條 右封印セシ貨幣ニハ日本語并英語ニテ其種類負數及ヒ其受取リシ月日其外巨細ヲ認メタル書付ヲ添ヘ造幣頭ハ之レヲ筐中ニ藏メ置クヘシ

第五條 廿圓金拾圓金五圓金ハ千枚毎ニ一枚宛ニ圓金壹圓金ハ五千枚毎ニ一枚宛ヲ取除ケ置クヘシ

第六條 貿易銀ハ五千枚毎ニ一枚宛ヲ取除ケ置クヘシ

第七條 補助銀貨幣ハ其品類ニ拘ハラズ貨幣負數二千枚毎ニ一枚宛取除ケ置クヘシ

第八條 試験ノ為メ集會セシ諸士官ノ目前ニ於テ
造幣寮試験方其手續ヲ為スヘシ其節政府ノ存意
ニ依リ造幣寮試験方ト共ニ其事ヲ取扱フ為メ別
ニ試験方ヲ仕スルコアルヘシ

右 皇國政府ノ命ヲ以テ供試貨幣分拆ノ規則ヲ設
立スル者也 大藏

明治八年一月

大藏卿大隈重信

造幣寮外國人職務要件

己号 皇國造幣頭ノ顧問役職務要件

第一條 顧問役ハ貨幣鑄造ノコニ付諸工業上ニ関
シ造幣頭又ハ其代理ヨリ下問ノ應アルキハ細大
ト無ク知見限リ辨解ヲ尽シ又自分注意ノ應アル
中ハ其旨一々造幣頭又ハ其代理ヘ申立精々補助

ノ任ヲ尽シ万事不都合ナキヤウ心ヲ用ユヘキ事

第二條 顧問役ハ其局ニ附屬スル日本官負生徒并

職工ノモノ成丈ケ速ニ銘々ノ職ニ慣レ任ニ堪フ

ルヤウ規律ヲ逐ヒ順序ヲ以テ能ク教授スヘシ

顧問役ハ現ニ其局ノ事業ニ從事スル諸生徒并ニ

諸職工ヲ指揮シ且怠惰不行跡ノコアルキハ其局

ニ長タル日本官負ノ手ヲ經テ之レヲ造幣頭ニ上

申スヘシ

第三條 寮中日本并外國官負ノ間親睦ニ接遇シ不

和ヲ生セサルヤウ策モ注意スヘキコ

第四條 工業上ニ於テ過當ノ損失并不全ノ圓形貨

幣等過多アラントテ恐レ一々之レヲ查出シテ改

正センカ為メ顧問役ハ造幣事業ヲ施行スル諸局

ニ出入シ右工業ニ関スル諸簿冊ヲ點檢スルヲ得ヘシ且ツ右諸局ニ於テ工業上不都合ナキ為メニ顧問役ハ金銀銅ノ諸貨幣及ヒ圓形、棒、切碎、塊等ヲ檢査シ或ヒハ之ヲ試驗シ而シテ顧問役ニテ若シ之ヲ不都合トスルキハ其運用ヲ止メンガタメ直ニ之ヲ造幣頭ニ上申スヘシ

第五條 顧問役ハ何時ニ限ラス造幣工業ニ付必用ナル器械、小道具、坩堝、含密藥、熔炉、其他物品ノ注文、精細書ヲ造幣頭又ハ其代理ニ差出スヘシ

第六條 鑄造濟ノ上都テ貨幣ヲ發出スル前顧問役ハ他ノ顧問役ト共ニ總テ之ヲ檢査シ自身又ハ他ノ顧問或ハ兩人ニテ右貨幣ノ量目精細ニシテ且ツ出来、取上ナルヲ保証シタル報告書ヲ日々造

幣頭又ハ其代理ニ差出スヘシ

第七條 顧問役ハ造幣頭若クハ其代理ノ命ニ隨ヒ造幣工業ニ従事スル諸外國人ノ該業ニ関シ銘々ノ職掌上ノ事ヲ支配スヘシ

第八條 顧問役ハ造幣頭或ハ其代理ノ指揮ヲ受ケ以上ノ條件ニ掲ケシ其課ノ職掌ヲ一意勉勵注意シ自己ノ知見ヲ盡シ奉務スベシ尤決シテ他官ノ日本人又外國人ノ指揮ヲ受ザルヘシ

連上ノ數件造幣頭又ハ其代理ニ於テ時々要用或ハ適當ト思量スルニ隨ヒ之ヲ改更スルヲアルヘシ大藏

皇國造幣寮試驗分拆、魚鑄解局長ノ職務要件、試驗分拆、魚鑄解局長ハ左ノ條目ニ隨ヒ金銀本位ノ其正ヲ得ルト得サルトニ於テ造幣頭ニ對シ其責任

ヲ有スヘシ

試験分拆用ノ精製金銀ヲ除クノ外都テ金銀銅ヲ監
守スルハ造幣寮毎局其長タル日本官員ノ任ニシテ
其紛失損亡等ハ一切試験分拆方兼鑄解局長ノ責ニ
アラザルヘシ

第一條 試験分拆方兼鑄解局長ハ造幣ノ為メ棒ヲ
鑄造スルニ一切ノ地金ヲ検査可致事

第二條 都テ造幣ノ為メ受取タル金銀ハ試験鑄解
ヲ要スルト要セサルトハ試験方之レヲ決断スヘ
シ

第三條 造幣適當ノ品位ヲ証明センカ為メ都テ造
幣スル所ノ金銀試験鑄解濟ノ塊物坩堝中ノモノ
棒并伸延セシ平板状ノモノ圓形及ヒ極印濟ノ貨

幣ヨリ試験ノ為メ要用ナル見本ヲ時々試験方ニ
於テ親自ニ之ヲ受取り得ヘキ事

第四條 鑄解局ノ工業中別テ地金ヲ秤量シ交銅ヲ
加ヘ坩堝中ニ入レ之レヲ鑄解シ之レヲ鑄造スル
トニ於テハ試験方兼鑄解局長ニ於テ管督ス可キ
事

第五條 棒并平板状ニ伸延セシモノ圓形或ハ極印
濟ノ貨幣ヲ問ハス都テ本位ニ適當ナラサルカ又
ハ造幣不適當ナルハ鑄解局ニ差返スヘキ為メ試
験方ヨリ直ニ造幣頭又ハ其代理ニ申出ツヘシ

第六條 日々極印セシ貨幣ハ本位公差ノ内ニアル
款ヲ決定シ及ヒ不適當ノ貨幣出納課ヘ引渡スト
無ラントヲ要シ試験方ハ本位試験ノ為メ日々極

印セシ金銀各種ノ貨幣ヨリ一枚又ハ數枚ヲ撰ミ
取り右貨幣試験ノ報告ヲハ造幣頭ヘ差シ出スヘ
シ

第七條 造幣工業ニ関涉スル公然ナル金銀試験分
拆ハデザロン氏ノ外同氏ノ承諾ト造幣頭又ハ代
理人トノ許可ヲ得サレハ他人ニ於テ之レヲ為シ
得ヘカラサル事

連上ノ數件造幣頭又ハ其代理ニ於テ時々要用或ハ
適當ト思量スルニ随ヒ之ヲ改正スルヲアルヘシ

皇國造幣寮化學兼冶金方職務ノ要件

化學兼冶金方ハ左ノ條件ニ随ヒ其事業ノ舉ルト、奉
ラサルトニ於テ造幣頭ニ對シ其責任ヲ有スヘシ

第一條 化學兼冶金方ハ化學及ヒ冶金所并ニ精銅

鑄銅所ノヲ專任スヘシ尤其銅類ヲ監守スルハ
其局ニ長タル日本官員ノ職掌タルヘシ

第二條 金銀ニ混和スベキ銅及ヒ銅ニ混和スル亜
鉛并ニ錫ヲ造幣寮ヘ受取ル以前ニ化學兼冶金方
ニテ其適正ナルヤ否ヲ證明スル事

第三條 化學兼冶金方ハ工業上所用ノ諸金屬(金銀
分拆ヲ除クノ外)混和物、酸類、石炭、粘土、煉化石、坩堝
竈其他ノ物品ヲ見本ヲ受取リ之ヲ檢査シ分拆シ
又或ハ之ヲ試験シ其分拆及ヒ試験結局ノ報告ヲ
造幣頭又ハ代理ニ呈スヘシ

連上ノ數件造幣頭又ハ其代理ニ時々要用或ハ適當
ト思量スルニ随ヒ之ヲ改正スル事アルヘシ

左院議案 財務課主査
法務課歴査

大藏

大藏省上申大改造幣寮御雇外國人ノ内首長キンド
ル始其他不要ノ者致解約放免候ニ付先般相究候事
務取扱規則其他兩件別冊甲乙丙号ノ通候処自今別
冊丁戊己号ノ通改正云々縷々具陳ノ趣勘査候処不
相當ノ虞モ不相見且別紙參照ニ供スル如ク昨七年
九月中御聞届相成居候儀ニ付同省上申ノ通御聽許
左ニ御指令相成可然ト存候也大藏

二月廿三日

造幣寮改正處分濟ヲ上申ス

大藏省上申

造幣寮改正處分ノ儀ハ客歲九月中同濟ノ趣ニ準據
シ尔来追々上申ノ後夫々同寮へ相達候処本年一月
廿六日ヨリ各局諸計算向等夫々取纏メ元首長擔當
ノ事務請取渡ノ都合豫メ相謀同月三十日神戸東洋
銀行支配人マケンヂ儀銀行總代トシテ談寮へ立會
ノ上元首長キンドル所轄ノ公物其他一式目錄ヲ以
同人ヨリ造幣推頭へ引継ノ順序無遺漏相濟同人ハ
勿論マケンヂニ於テモ條約無滞相濟候段申聞ケ随テ
翌三十一日限首長キンドル始將來不用ノ外國人支
々解約退寮ノ後本月一日兼テ草案ヲ以上申伺濟ノ

趣ニ準拠シ雇繼ノ者デイロン外四名ヘ夫々命令書
 相渡候処孰レモ奉命各名ヨリ受書差出候趣且同日
 以降造幣処務順序等是亦本年一月十日上申仕置候
 通施行各局ノ事務即無差支從事仕候段造幣權頭ヨ
 リ具陳有之候尤東洋銀行ノ儀ハ去ル一月三十一日
 限リ従前ノ約定全ク相解候ヘ氏更ニ照會ノ上外國
 人ヨリ該寮ヘ輸入ノ金銀地金取扱ニ限リ猶三井組
 ノ内國人ニ於ルカ如ク神戸東洋銀行ニ相命シ為取
 扱候其他該寮計美方葡萄牙人ブイ、イ、ブラガ儀モ最
 早不用ニハ候ヘ氏創業以來抜群尽力ノ者ニ有之旁
 約條期限迄ノ間當省ニ於テ洋式簿記法取調ノ為メ
 使用ノ苦ニ相達且洋鑒ノ儀ハ本月限リ放免ノ苦ニ
 達置申候到底別紙外國人進退表ノ通ニ有之候前條

東洋銀行并キンドル其他不用ニ属シ候外國人解約
 放免一切同寮ノ事務改正處分濟ノ上ハ最早従前ノ
 弊害全ク相脱シ将来同寮ノ名實顯然相立可申奉存
 候依之改正處分ノ顛末縷述此段上申仕候也
 造幣寮雇外國人進退表

雇繼ノ部

國名	人名	年齢	職掌	住所	雇入年限	月給
英吉利	エドワルト デ井ロン	二十六歳	試験方并鑄解局 長兼造幣頭顧問	造幣寮官舎	明治八年二月 一ヨリ三ヶ年	六百圓
同	ウ井ルリヤム ガウランド	三十八歳	化學方并冶金 方兼造幣頭 顧問	同	同	六百圓
同	ロベルト マクラゴン	三十七歳	機械方	同	同	三百五十圓
同	トマス ハウレット	三十四歳	極印方	同	同	二百五十圓
伊太利	チヤールレス、 ニコラ、 マンチネ	三十八歳	同	同	明治八年二月ヨリ ヨリ雇無期限	二百圓
葡萄牙	ブイ、イ ブラガ	三十五歳	同 旧造幣寮計美方 今般太藏省ニ採用	東京濱丁大藏 省所轄邸内	明治七年一月ヨリ 同八年十二月ヲテ	二百圓 別段百圓

大正癸卯

但
ダイロン、外三名へハ更ニ命令書相渡雇
マンチネ、ハ當分依旧月雇
ブラガ、ハ従前ノ約條期限迄其終自今於本省使用スルノミ

解約退寮ノ部

國名	人名	年齢	職掌	解約日附	月給
英吉利	トーマス、ウヰル リヤム、ギンドル	五十八歳	首長	明治八年一月 三十一日	千四十五弗
同	ジウ、ハンター	三十二歳	銀分拆方	同	三百弗
同	イ、アットキン	二十七歳	金銀鑄解方	同	三百弗
同	ヘンリ、シャルド	三十三歳	極印彫刻方	同	二百五十弗
同	エドワード ワイラン	三十八歳	極印方	同	二百五十弗
同	ローランド フィンチ	三十歳	硫酸方	同	二百五十弗
同	ヘルベルト ウイラー	二十三歳	首長書記方	同	二百弗
葡萄牙	シーブラカ	三十六歳	計算方	同	二百圓
英吉利	エルズエビー	二十七歳	計算方	同	二百圓 外五十圓
同	ロート、スミス	三十一歳	機關方助役	同	二百圓

同	ドクトル、レニッキ	二十六歳	醫師	明治八年二月 廿八日放免ノ答	七拾圓
---	-----------	------	----	-------------------	-----

左院議按
財務課主査
外務課歴査
造幣寮改正處分濟ノ儀大藏省上申面供高覽候也
二日 大藏

大正癸卯